



デジタル読解力が最も高いのは誰か？

- PISA調査におけるデジタル読解力の成績が最もよかったのはシンガポールで、次に韓国、香港、日本、カナダ、上海という順であった。
- オーストラリア、カナダ、アイルランド、韓国、シンガポール、アメリカの生徒は最も高度なブラウジングスキルを有しており、他の国や地域の生徒と比べて、リンクをクリックする前により注意深く選択し、課題の解答に必要なリンクを閲覧していた。
- 各国のデジタル読解力の成績と生徒のデジタルテキスト上のナビゲーションの質には強い相関がある。

紙に印刷されていてもオンライン上のものでも、同じ文章であれば同じように読むことができると捉えがちだが、実はこの二つの「読む」の間には重要な違いがある。オンライン上で上手に読むためには、無限に存在するかのように見える情報の中から目的と関連し、かつ信頼に値する情報源を選別しながら、テキストが書かれたページ（画面）を探し当てる能力を持っていなければならない。オンラインメディアやその他のインターネットを利用したサービスにより、私たちの私的・公的な生活を豊かに過ごす機会が与えられたことで、各個人はデジタルテキストに慣れ親しみ、それらの恩恵を余すことなく享受するために必要な、特有の評価技能とナビゲーションスキルを身に付けなければならない状況にある。

オンラインでうまく読むための秘策…

PISA2012年調査は、生徒たちがオンラインテキストをどの程度うまく読み、検索し、理解できるかを測定することを目的に設計された。ウェブサイト、タブやハイパーリンクを備えた模擬ブラウザ環境によって、生徒たちの読解力だけでなくブラウジング行動を観察できる管理された環境が提供されたのだ。

PISA調査におけるデジタル読解力で上位の成績を取めた国や地域は、シンガポール、韓国、香港、日本、カナダ、上海である。この順位は、大体において各国の筆記型読解力の成績を反映している。つまり、紙ベースのテキストを理解し正しく推測することができなければ、生徒のオンライン上での読解力を高めることは不可能であるということを裏付けている。しかし二つの順位の間には重要な違いがあり、それらは主にデジタルでの読解に特有の技能、つまり生徒のオンラインでのナビゲーション能力と関係している。

例えば韓国とシンガポールの生徒は、筆記型調査で同程度の成績の他の国の生徒よりデジタル読解力の得点が有意に高い。同じ現象はオーストラリア、カナダ、香港、日本、アメリカなどでも見ら

2012年調査のデジタル読解力と筆記型調査読解力の成績

	デジタル読解力		筆記型調査読解力	
	平均得点	順位の範囲	平均得点	順位の範囲
シンガポール	567	1 - 1	542	2 - 4
韓国	555	2 - 3	536	3 - 5
香港	550	2 - 4	545	2 - 4
日本	545	3 - 4	538	2 - 5
カナダ	532	5 - 6	523	6 - 9
上海	531	5 - 6	570	1 - 1
エストニア	523	7 - 10	516	9 - 11
オーストラリア	521	7 - 10	512	10 - 12
アイルランド	520	7 - 11	523	6 - 9
台湾	519	7 - 11	523	6 - 9
マカオ	515	10 - 12	509	12 - 14
アメリカ	511	10 - 15	498	15 - 19
フランス	511	10 - 14	505	12 - 16
イタリア	504	12 - 17	487	17 - 25
ベルギー	502	14 - 17	509	11 - 15
ノルウェー	500	14 - 18	504	12 - 16
スウェーデン	498	14 - 18	483	19 - 25
デンマーク	495	16 - 19	496	15 - 18
ポルトガル	486	18 - 21	488	17 - 24
オーストリア	480	19 - 22	490	17 - 23
ポーランド	477	19 - 23	518	7 - 11
スロバキア	474	20 - 24	463	27 - 27
スロベニア	471	22 - 24	481	23 - 25
スペイン	466	22 - 26	486	19 - 25
ロシア	466	23 - 26	475	25 - 26
イスラエル	461	24 - 28	486	18 - 26
チリ	452	26 - 28	441	28 - 29
ハンガリー	450	26 - 28	488	18 - 24
ブラジル	436	29 - 29	413	30 - 30
アラブ首長国連邦	407	30 - 30	442	28 - 29
コロンビア	396	31 - 31	403	31 - 31

注：2012年調査において筆記型調査読解及びデジタル読解力の両方に参加した国または地域のみを掲載。OECD加盟国は黒字で表示。
 平均得点は抽出されたサンプルのものであるため、参加国または地域の正確な順位を確定することは不可能である。順位の範囲はこの平均得点に関連する不確かさを反映している。
 デジタル読解力の平均得点が高い順に上から国・地域を並べている。
 出典：OECD, PISA 2012 Database

れる。一方、筆記型調査読解力で好成績を収めたポーランドと上海の生徒は、その能力をオンライン環境に転換することに大きな困難を感じている。

デジタル読解力調査における生徒のナビゲーション行動の分析によって、成績上位の国や地域の生徒たちが有するデジタル読解力の相対的な強みの背後にあるものを明らかにすることができる。

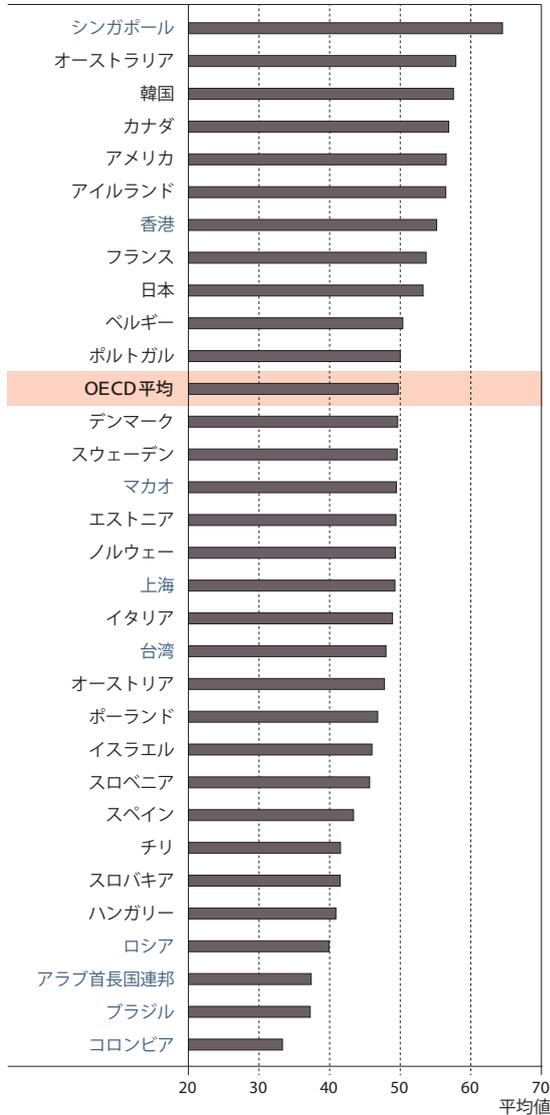
…それはデジタル環境で容易に思慮深くナビゲーションできることである。

生徒のウェブブラウジング行動の質は、平均してシンガポールを筆頭に、オーストラリア、韓国、カナダ、アメリカ、アイルランドの順に高い。これらの国の生徒はオンラインでのナビゲーションにおける選択能力が最も高い傾向にある。彼らはクリックする前にどのリンクをたどるべきかを慎重に判断し、課題を解くために必要なリンクに限って閲覧している。その結果これらの国々では、デジタル読解力において単に筆記型調査読解力の成績から予測される以上の成績を収めている。

一方、東アジアの国や地域の生徒たちは、デジタル読解力調査で複数のページを閲覧する際に、他と比較してナビゲーションシーケンスが最も長い。香港、日本、韓国、シンガポールではこれらのシーケンスの質は全体的に良い。しかしマカオ、上海、台湾では、5人に1人の生徒が課題に関連するページ以上に関連しないページを閲覧していた。これらの生徒は粘り強く努力しているが、デジタルの世界で漂流している。



デジタル読解力における 課題指向型ブラウジング



注：課題指向型ブラウジング指標を算出するため、生徒はナビゲーション行動の質によって分類されている。このグラフにおける各国の値は、同じ出題形式を割り当てられた生徒を国際的に比較した平均パーセンタイル順位に対応する。この指標値が高いほど、課題関連ステップが多く、ミスステップや無関連ステップがない、もしくは少なく、ナビゲーションシーケンスが長いことを示す。

課題指向型ブラウジング指標の大きい順に上から国を並べている。

Countries and economies are ranked in descending order of the index of task-oriented browsing.

出典：OECD, PISA 2012 Database.

StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888933253082>

生徒のナビゲーション行動の記述について

デジタル読解力における生徒のナビゲーション行動を記述するために生徒の全てのブラウジングシーケンスを、移動前のページと移動後のページに基づいて、基本的シーケンス(ステップ)に分類した。二つの指標がステップ数から導き出されている。

第一の指標はナビゲーションステップの量を測定する。異なるテストフォームの生徒間で比較可能とするために、全体的なブラウジング活動指標が、同じ問題を実施された全ての生徒の分布におけるパーセンタイル順位として算出された。例えば、この指標値が73の生徒は、同じテストフォームの生徒全体の73%の生徒よりも、多くのページを閲覧したといえることができる。

第二の指標はナビゲーションステップの質に関係する。デジタル読解力調査において閲覧可能な全てのページが、出題されるそれぞれの問いに有用若しくは必要な情報を生徒に示すわけではない。課題指向型ブラウジング指標は生徒のナビゲーションシーケンスがそれぞれの問いの要求を前提として期待されるものにどの程度沿っているかを測定する。この指標が高い値であることは、課題関連ステップ(関連ページから別の関連ページへのステップ)を多く含み、ミスステップや無関連ステップ(関連しないページへのステップ)がないかほとんどない、長いナビゲーションシーケンスであったことを示す。

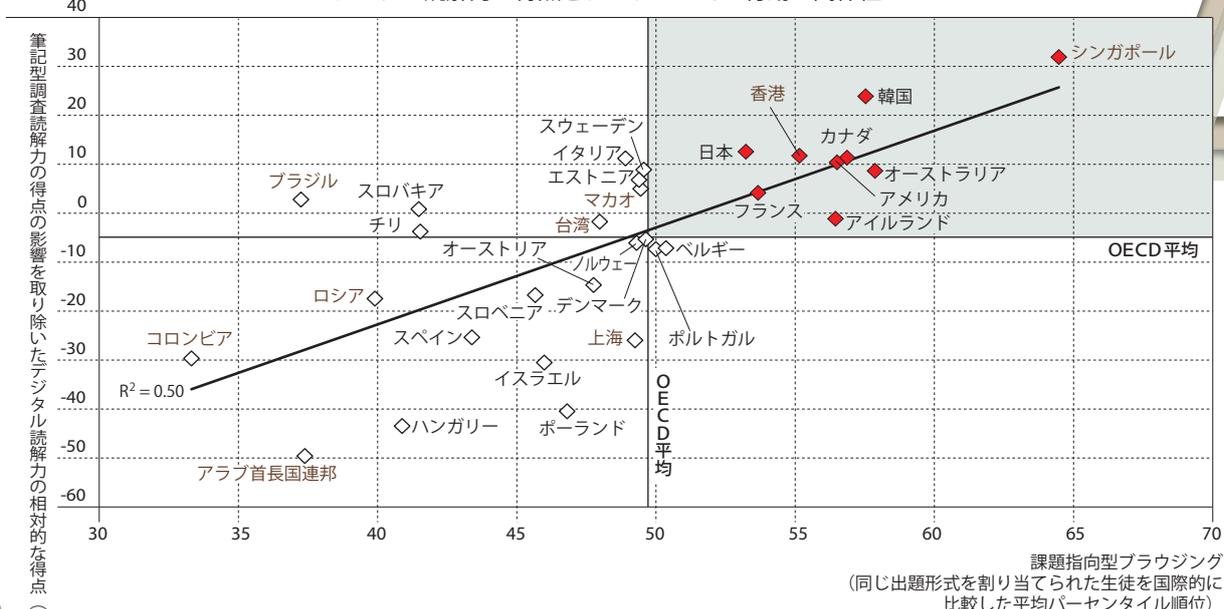
OECD加盟国の生徒の10人に1人は、ブラウジング活動が限定的または見られなかった。これは基本的なコンピュータ技能の欠如、ウェブブラウジングへの不慣れ、または意欲のなさを示唆している。このような生徒は、東アジアの国や地域ではほとんど見られない。対照的に、ブラジル、コロンビア、ハンガリー、イスラエル、ポーランド、アラブ首長国連邦では6人に1人以上がこのグループに属しており、それらの国のデジタル読解力の成績が予測を下回る要因の一つとなっている。



PISA

IN FOCUS

デジタル読解力の得点とナビゲーション行動の関係性



注: 各国のデジタル読解力の相対的な得点は、生徒の測定された得点と予測される得点の差の平均を示す。各生徒の期待される得点は、回帰モデルを用いて、筆記型調査読解力の得点から求められるデジタル読解力の得点の期待値として推定される。各菱形記号は、各国の平均値を示す。
 出典: OECD, PISA 2012 Database.
 StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888933253123>

結論: デジタル読解力を高めるには、検索を計画して実行する能力、情報の有用性を評価する能力、情報源の信ぴょう性を判断する能力が生徒には必要である。多くの生徒にとって、これらの能力は単なる無計画な実践だけで得られるものではない。その重要性がますます高まる中、こうした能力を生徒が習得するには教師からの明確な指導や質の高い教育資源が必要である。

本稿に関するお問合せ先

担当: Francesco Avvisati (Francesco.Avvisati@oecd.org)

出典: OECD (2015), *Students, Computers and Learning: Making the Connection*, PISA, OECD Publishing, Paris.

You can see – and try – some of the tasks used in the digital reading assessment at the website of the Australian Council for Educational Research: <http://cbasq.acer.edu.au/index.php?cmd=toEra2012> (accessed 16 July 2015).

参考サイト

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

[Adults in Focus](#)

[Education Indicators in Focus](#)

[Teaching in Focus](#)

次回テーマ:

学校は移民を統合する助けになり得るのか?

Photo credits: © khoa vu/Flickr/Getty Images © Shutterstock/Kzenon © Simon Jarratt/Corbis

This paper is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and the arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of OECD member countries.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.

The statistical data for Israel are supplied by and under the responsibility of the relevant Israeli authorities. The use of such data by the OECD is without prejudice to the status of the Golan Heights, East Jerusalem and Israeli settlements in the West Bank under the terms of international law.